

和歌山北高等学校（西校舎）

実施日時	下記詳細参照
参加者	4回分合計 生徒1321名、教職員260名 総計1581名
実施内容	下記詳細参照

実施日時/参加者/実施内容 詳細

●第1回

平成30年10月10日（水）2限
生徒650名、教員140名（さくら支援学校を含む）

・実施内容

大規模な地震が発生し、西校舎2棟1階家庭科調理室から出火を想定した避難訓練

- ① 大規模な地震が起こるといふ緊急地震速報を放送する。
- ② 西校舎2棟1階厨房室付近から火災発生のも非常ベルを鳴らす。
- ③ 副本部長（教頭）は4人の教員に状況確認の指示を出す。
- ④ 副本部長は、放送で全校生徒に非常ベルが鳴ったことを伝え、次の指示まで待機するように伝える。
- ⑤ 状況確認教員からの報告を受け、状況の確認をする。
- ⑥ 消防署へ連絡をする。
- ⑦ 緊急放送により、火災発生場所を連絡するとともに避難指示を行う。
- ⑧ 避難誘導係りは生徒を安全に誘導し、第2グラウンドに速やかに避難させる。
- ⑨ 避難誘導係りは、避難者の避難確認をするに伴い、負傷者、不明者等の状況も併せて副本部長に報告する。
- ⑩ 副本部長は、消防隊長に避難状況を報告する。
- ⑪ 水消火器による消火訓練を行う。
- ⑫ 和歌山北消防署員からの講話。



●第2回

平成30年10月11日（木）4限
1年生生徒 159名、教員 8名

・実施内容

津波防災啓発DVD鑑賞

- ① ビデオ鑑賞の目的を生徒に説明する。
- ② 津波防災啓発DVD「犠牲者“ゼロ”をめざして」を鑑賞する。
- ③ ビデオ鑑賞後の感想を用紙に記入する。
- ④ 津波への正しい備え方や行動を確認する。



●第3回

平成30年11月1日（木）2限
全生徒（普通科・スポーツ健康科学科）450名
教員40名

・実施内容

- ① 緊急地震速報を放送する。
- ② シェイクアウト訓練を行う。
- ③ 避難経路の確認と、資料を基に様々な状況の中での対応の説明をする。





●第4回

平成30年10月19日（金）9：00～11：00

スポーツ健康科学科2年生 62名

・実施内容

- ① 救急救命の必要性の講話
- ② 心肺蘇生法の実習
- ③ AEDの操作方法



参加者感想文

- ・ 実際火災が起こったという緊張感を持って参加することができた。さくら支援学校の生徒さんたちとともに大勢の人が行動することになるので、先生の指示したことは必ずしっかり聞いて、周りに迷惑のかけることのないようにしなければならなかったと感じた。
- ・ 「自分の命は自分で守る。」率先して行動することを1人ひとりがすることによって防災になり、被害が少なくすることができると思いました。
- ・ 本当に地震が起こったという想定ですぐ机の下に隠れた。いつどこで起こるかもしれないことなので、多くの機会に注意する意識を持っておきたいと思った。
- ・ 初めての体験なので初めはとまどいましたが講師の先生に丁寧に教えてもらって少しずつ

上手にできるようになった。心肺蘇生の大切さを学ぶことができてよかった。

成果と課題

●第1回

避難することは速やかだった。さくら支援学校の生徒と水消火器を使用して、合同で消火ができたことは貴重な経験となったことは、大きな成果となった考える。さくら支援学校の生徒の避難の支援については、具体的に行うことは難しいところがある。今後どのように取り組んでいくかが課題である。

●第2回

生徒たちはしっかりとビデオを鑑賞していた。DVDで解説している片田教授の説明もわかりやすかった。実際に映像を目で見ることにより、生徒たちの関心が高まった。今後、得た知識を基に実際に行動につなげられることが課題である。

●第3回

授業中における緊急地震速報の対応について経験できた。避難訓練などから様々な状況下での対応を学ぶことで、知識が増え意識も高く持てるようになった。

●第4回

スポーツ健康科学科の水泳実習の一環として実施している。実習での対応はもちろん日常での災害時にも講習の内容を大切にしようとしていた。